



都市再生特別措置法改正に伴う
立地適正化計画の作成

布田 一民

問 いわぬま未来構想に向け、人口動態を把握し、フレームを定期的に見直し、新たな都市像を明確にすべきである。旧市街地（JR（国道4号線）について社会情勢・財政の変化に対応した「立地適正化計画」を作成して、新たな都市計画づくりをすべきではないか。

市長 人口の動態は、重要な視点です。さらに、調査をしてまちづくりを進めていきます。

旧市街地の空洞化対策を

問 「立地適正化計画」において「都市機能誘導区域」「居住誘導区域」を定め、住環境を整備するべきである。老朽化が著しい住宅の存在する区域を調査して「空き家再生推進事業」を取り入れ、旧市街地の人口の空洞化対策を図るべきではないか。

市長 人口問題調査会で調査した内容では、2040年には、岩沼市は4万人を切るというデータが出ています。適した制度を活用し、対応していきたいと思えます。

問 中心市街地では、居住区域が

存在し、商店街を今後どのように形成して行くのか。土地利用の規制を活用しながら計画を作成すべきではないか。

市長 社会的価値観、環境的価値観、経済的な価値観などの視点で、どう計画を立てるか、情勢を見極めていきたいと思えます。

問 東部地域の交通機関整備が課題である。集団移転地が造成され、人口集中地域となった玉浦地区に仙台空港からのアクセス鉄道の路線延長を図り、「玉浦駅」を建設すべきではないか。また、西部地域は、西部中心市街地に「西中学校校移設」を考え、県道「仙台・岩沼線」までの農地を活用し、都市化を図るべきではないか。また、玉崎地区の国道4号線沿いの土地利用を図り、都市化を進めるべきではないか。

市長 大変難しい提案と認識しています。人口減少、高齢化、空洞化について考え、持続可能な都市、コンパクトシティーを目指していくことが重要だと思えます。



玉浦地区コミュニティ
施設整備

佐藤 一郎



東部地区の玉浦公民館

問 玉浦地区コミュニティ及び防災力の強化を図る施設整備等はどうのように考えていくのか。

市長 被災地のコミュニティの再生を目的とした施設整備をしていきたいと思えます。東部地区の玉浦公民館敷地なども重要な活用用地だと思います。新しい東部地区コミュニティの活性化、防災の拠点を考えます。

問 現在の玉浦公民館周辺は開発が進んでおり、いざという時の防災拠点が必要である。具体的にはどのように考えているのか。

市長 玉浦公民館は浸水し、置い

てあった車が相当被害を受けました。施設も老朽化しており、改修を含め東部地区の複合施設、コミュニティ、防災施設など、地域の活性化に役立つ機能を持った複合施設を考えています。

防災拠点必要ではないか

問 今後のスケジュールはどのように考えているのか。

市長 施設整備には当然財源が必要なので、災害復興交付金も活用できないか含め、調整していきます。財源の確保を最重要として取り組んでいます。

問 計画に当たって地域住民、利用者の声を反映する場を設けてはどうか。

市長 地域の方々とも話し合い、懇談会をすることが必要だと思えます。施設設置の目的をしっかりと捉えることが大切で、予算の範囲で要望に応じた必要な機能を備えた設備を設置することが考えられます。

◎その他の一般質問
・岩沼の歴史